

2 専門科目

専門科目では、将来の目的に応じた実学専門知識を修得することができるよう、2年次から専攻・コース別に分かれて、学修していくことになります。

専攻・コースの選択に当たっては、各専攻・コースの概要及び教育課程表等を基に慎重に行うのはもちろんのこと、所定の時期に登録を完了しない場合、当該年度（学期）の履修は認められませんので注意してください。

[1] 専攻・ コース概要

2014年度以降入学生

日本語学科

専攻名	狙い・進路・カリキュラムの特徴等
日本語専攻	日本語教育と国語教育の教員を目指します。また、大学院進学も視野にあります。 日本語教育：日本語を母語としない児童生徒、学生、成人の心豊かな生活を支える日本語教育を目指す学生、海外で日本語を教える、日本語・日本文化の理解を広める仕事を目指す学生が対象です。 国語教育：国語科教員（中学校・高等学校）として、日本文化・日本語・国語を客観的にとらえて教える、外国人生徒を指導する仕事を目指す学生が対象です。 高度な日本語力が活かせる仕事に就きたい学生も対象です。
グローバル・スタディーズ専攻	グローバル時代に生き、グローバル化社会で活躍することを目指す学生が対象です。世界の民族、文化、宗教、言語、経済、人間等についての学習、英語・中国語・日本語でのコミュニケーション力の修得を通じ、状況に応じて柔軟に対処できる力、世代の違う人や外国人など異文化を背景とする人と適切に対応できる力、世界に貢献するための専門的な知識・経験を身に付けます。

※教育職員免許状については、日本語専攻のみ取得可能です。

英米語学科

専攻名	狙い・進路・カリキュラムの特徴等
英米語専攻	英米語専攻は、特に、「外国語（英語）」と「語学教育」と「欧米の文化・社会」について深く学びたい学生のための専攻です。ただし、ビジネスシーンで活かせる中国語を身につけるための科目や「グローバル・スタディーズ関連科目（の一部）」が必修もしくは選択必修となっており、この専攻にあっても、ビジネスに関する専門知識を十分に高めることができます。この専攻の学生は、教員のアドバイス（履修ガイダンス）を参考に、自分の卒業後の進路に特化した科目履修計画を立てることができます。なお、教員免許の取得を目指す学生は、この専攻に所属すると同時に、所定の手続を行って教職課程科目を履修することになります。（ただし、教職課程科目を履修するためには一定の英語力に達している必要があります。）
グローバル・スタディーズ専攻	英米語学科におけるグローバル・スタディーズ専攻は、「外国語（英語）」と「ビジネスの専門知識」を兼ね備えた「グローバル人材」を目指す学生のための専攻です。この専攻の学生は、実践的英語運用能力を高めながら、主として英米語圏の文化とビジネスを中心に、幅広く国際教養を学んでいくことになります。卒業後の進路として、諸外国・地域と関連の深い商社、企業、国際協力に関する政府機関やNGO、その他幅広い業種への就職を考えている学生に相応しい専攻です。この専攻の学生は、専門科目として、「グローバル・スタディーズ関連科目（ビジネス経済学、社会統計学などのコア科目、北アメリカ研究、ASEAN研究などのグローバル科目及びフィールドワーク科目からなる）」を34単位以上履修しなければなりません。これにより、これからのグローバル社会でたくましく生き抜く知識とスキルを身につけることができます。

※教育職員免許状については、英米語専攻のみ取得可能です。

中国語学科

専攻名	狙い・進路・カリキュラムの特徴等
中国語専攻	<p>中国語専攻（CLM：Chinese Language Major）では、言語を通じて幅広く中国の歴史・社会・文化を理解し、現代・古典を問わず深い教養を身につけ、中国に精通した人材の育成を目指しています。中国の古典は、中国だけでなく、日本とも関係の深いさまざまな知恵を含んだ知識の宝庫です。</p> <p>中国思想、中国文学、中国宗教など、言語の奥に横たわる中国の文化を深く知ること、現代社会の持つ特質をよりよく理解できるほか、自分の生き方のヒントになったり、今後の中国社会への洞察力を養うこともできます。</p> <p>中国や台湾への長期留学の機会も用意されており、現地でより深く学ぶことも可能です。また、教職課程を履修して中国語教員を目指したり、さらに深く学ぶために大学院進学を目指す学生にも対応しています。卒業後は一般企業への就職や教員、通訳、大学院進学などを想定しています。</p>
グローバル・スタディーズ専攻	<p>グローバル・スタディーズ専攻（GSM：Global Studies Major）では、国際的教養を身につけると同時に、グローバル時代に対応した柔軟な発想と時代の変化に適応可能な、すぐれた人材の育成を目指しています。異文化コミュニケーションのベースとなる中国語と英語の学習の上に、コア科目としてビジネス経済学、経営学総論、会計学総論、社会統計学、マーケティング論など、ビジネスに必須の社会系科目を学び、時代の変化に迅速に対応できる能力を身につけます。さらに、フィールドワーク科目では、GSM海外留学、GSM海外研修、GSMインターンシップ、GSMボランティアの中から必修でいずれかの科目を履修し、社会活動や海外経験を積むことで、社会との結びつきを肌で感じることができます。また、グローバル科目には北アメリカ研究やASEAN研究などの地域研究や比較文化論なども設置され、国際的視野を大きく広げることが可能です。卒業後は国内企業はもちろんのこと、国際機関や多国籍企業への就職を想定しています。</p>

※教育職員免許状については、中国語専攻のみ取得可能です。

2010～2013年度入学生

日本語学科

コース名	狙い・進路・カリキュラムの特徴等
日本語教育コース	<p>日本語教師を志望する学生を対象とします。日本語教育の専門教育を徹底し、日本語教育の知識と経験を十分に身につけた学生を養成します。国内・国外で、日本語教育の実習を行うこともできます。専門的な学習を希望する学生には大学院等への進学を見据えた指導を行います。</p>
国語教育コース	<p>将来、国語科の教員（中学校・高等学校）を志望する学生、日本語や日本文化の専門知識が活かせる職業に就くことを希望する学生、日本語・日本文学等専攻の大学院に進学を希望する学生を対象とします。日本語学・日本文学・日本文化の基礎知識を踏まえた上で、専門的な知識を養い、日本語・日本文化の専門家を養成します。</p>
国際ビジネスコース	<p>一般企業に就職する学生、広く国際舞台で活躍することを希望する学生を対象とします。日本語を広い視野から学び、日本語・日本文化に関する専門知識と外国語運用能力を身につけた上で、日本語読解能力・表現力・漢字能力等、ビジネスに必要な能力を徹底的に鍛え、企業で即戦力として活躍し得る社会人を養成します。</p>

英米語学科

コース名	狙い・進路・カリキュラムの特徴等
通訳・翻訳 コース	通訳・翻訳など、ことばを専門とする職業やメディア・ジャーナリズムなどの業種に興味を持つ学生を対象とします。実践的な通訳・翻訳訓練を行うことにより英語の運用能力を高めると共に、幅広い分野に関する知識を深めることによって、通訳・翻訳、広報、企画、渉外、秘書、ジャーナリズム、一般企業、観光関連職等で活躍するための基礎を養います。
ビジネスキャリア コース	多彩な実務的英語科目を履修することにより、幅広いビジネス場面に対応できる実践的英語運用能力の修得を目指します。グローバルな視点からロジカル（論理的）かつクリティカル（批判的）に思考できる能力を伸ばすことも本コースの目標の1つです。主として、国内企業、外資系企業、ホテル・旅行・サービス産業などへの就職を目指す学生を対象とします。
言語・文化・ 教育コース	英語に関連する諸分野（英語学・英米文学・コミュニケーション学、英語教育学等）を総合的に探求し、ことばと文化への深い洞察力を身につけ、教育・出版業界などへの就職、中学校・高等学校における英語の教員免許取得、大学院進学などを目指します。教員免許の取得を目指す学生は、このコースに所属すると同時に、所定の手続きを行って教職課程科目を履修することになります。（なお、教職課程科目を履修するためには一定の英語力に達している必要があります。）

中国語学科

コース名	狙い・進路・カリキュラムの特徴等
通訳・観光 コース	将来において同時通訳者を職業としたい者、企業内で役立つ通訳技能を習得したい者及び旅行・観光業従事者を目指す学生を対象として、訓練・育成を行います。「聞く・話す」能力の養成を重視し、同時に中国語や現代中国事情、日中文化交流等に関する正確な知識の習得にも努めます。
文化・教育 コース	中国の現代社会の理解へ、あるいは現代、古典を問わず中国文学、中国思想、中国宗教、中国語学等の方面へと幅広く知識と教養とを広げていきます。広い視野に立つ知識が得られるのと同時に、自分の最も興味を持った領域をより深く学ぶことも可能です。翻訳家や大学院進学を目指す学生、教職課程を履修し中国語教員を目指す学生、一般企業への就職を希望する学生を対象とします。
国際ビジネス コース	国際ビジネスコースは、外資系企業、商社、貿易業界、ホテル、旅行業への就職など中国語運用能力を一般企業や海外勤務で活かしたい学生を対象とします。中国語での実務能力を磨くため、商業文や実務を学ぶ科目、インターネットやE-mailのやりとりなど、中国語での情報処理を学べる科目も用意されています。また広く国際社会で活躍できるように英語が必修科目として設定されています。

[2] 専攻・ コース登録

各専攻・コースには、開講される授業科目の性質上、定員が定められているものがあります。

専攻・コースの登録に当たっては、オリエンテーションの際に手続等の詳細な説明や希望調査が行われますので、必ず出席してください。

2014年度以降入学生

学 科	日本語学科	英米語学科	中国語学科
専攻定員	定員は定められていません。		
専攻希望調査の時期	1年の後学期に行います。		
選抜方法	フレッシュパーソンセミナーⅠ・Ⅱの学修状況、面談での意思確認、適性等を踏まえて決定します。	フレッシュパーソンセミナーⅠ・Ⅱの授業等を通じて、本人の希望・適性等を見極めつつ指導を行い、専攻を決定します。一方の専攻に人数が集中した場合には、調整することもあります。	専攻希望調査に従って専攻分けを行います。特定の専攻に人数が集中することがあった場合は、調整することもあります。
専攻発表・決定	1年の1月末		

※詳細については、別途掲示等で指示します。

2010～2013年度入学生

学 科	日本語学科	英米語学科	中国語学科
コース定員	定員は定められていません。	通訳・翻訳 40名 ビジネスキャリア 100名 言語・文化・教育 60名 ※定員は目安です。また、3年次編入学生を除きます。	定員は定められていません。
コース希望調査の時期	1年の11月	1年の10月～11月頃	1年の11月頃
選抜方法	フレッシュパーソンセミナーⅠ・Ⅱの授業等を通じて、本人の希望・適性等を見極めつつ指導を行い、コースを決定します。特定のコースに人数が集中することがあった場合は、調整することもあります。	コース希望調査に従って選抜及びコース分けを行います。	コース希望調査に従ってコース分けを行います。特定のコースに人数が集中することがあった場合は、調整することもあります。
コース発表・決定	1年の1月にフレッシュパーソンセミナーⅡの授業の中で発表します。	2年の履修登録時に掲示により発表します。	

※詳細については、別途掲示等で指示します。

[3] 専攻・ コース変更

2014年度以降入学生

学 科	日本語学科	英米語学科	中国語学科
専攻 変更時期	3年進級時	3年進級時（2年終了時に必要な手続を取るごと。）	2016年度以降入学生 2年4学期時 ※学期開始時に限る。 2014・2015年度入学生 3年進級時
注意事項・ 特記事項	専攻の変更は、変更を希望する学生が、変更希望の申請を学科主任及び教務委員に行い、許可された場合に限ります。	専攻の変更は、変更を希望する学生が、教務委員に願い出て、必要な書類を提出し、許可された場合に限ります。	専攻の変更は、変更を希望する学生が、学科主任及び教務委員に変更理由等を添えて願い出て、許可された場合に限ります。

※詳細については、別途掲示等にてお知らせします。

2010～2013年度入学生

学 科	日本語学科	英米語学科	中国語学科
コース 変更時期	3年及び4年進級時（いずれか1回に限ります。）	3年進級時（2年終了時に必要な手続を取るごと。）	3年進級時
注意事項・ 特記事項	コース変更は、変更を希望する学生が、教務委員に変更理由等を添えて願い出て、許可された場合に限ります。	コース変更は、変更を希望する学生が、教務委員に願い出て必要な書類を提出し、許可された場合に限ります。なお、3年進級時以外の変更は原則として認めません。	コース変更は、変更を希望する学生が、学科主任及び教務委員に変更理由等を添えて願い出て、許可された場合に限ります。

※詳細については、別途掲示等にてお知らせします。

[4] 日本語 教員養成 課程修了 証明書

日本語学科日本語専攻

外国語学部日本語学科日本語専攻の卒業要件を満たし、以下の科目を修得した者に対して、日本語教員養成課程修了証明書を発行します。

証明書の交付に係る詳細については、掲示等で告知します。

2014～2016年度入学生

授 業 科 目 等	日本語教育実習（4）
-----------	------------

2017年度以降入学生

授業科目名 (() の数字は単位数)	
日本語学概論（2）	検定対策Ⅱ（2）
日本語史Ⅰ（2）	検定対策Ⅲ（2）
敬語表現法（2）	検定対策Ⅳ（2）
表記法概論（2）	音声指導法研究Ⅰ（2）
言語学概論（2）	文型指導法研究Ⅰ（2）
社会言語学Ⅰ（2）	評価法研究（2）
社会言語学Ⅱ（2）	教案作成研究（2）
日本語教育概論（2）	日本語教育事情（2）
日本語教授法（2）	第二言語習得論（2）
日本語教材論（2）	日本語教育実習（4）
検定対策Ⅰ（2）	文化講義Ⅱ（異文化理解）（2）
合計単位数 46単位	

3 卒業論文（2010～2013年度入学生）

卒業論文とは、指導教員から指導を受け、学部、学科の教科に関する修業を集約・発展させて論文を作成することをいい、英米語学科開講の『卒業論文（6単位）』がこれに当たります。なお、この科目は4年次の選択科目であり、「特殊研究科目」の中に配置されています。

指導教員の確定方法、論文の執筆・提出要領等は、別途ガイダンス等で説明がありますので、履修を希望する学生は必ず出席してください。